

いつまでも できると思うな子の応援



中二の末っ子次男のバレーボール部の試合を見に行きました。いつもはスタメンじゃないので、試合にまったく出られない日もありますし、出られてピンチサーバーくらいです。それが、大会前にスタメンの同じポジションの子が捻挫。次男が代役をやることになったそうです。

私は土日も仕事をしていることが多く、次男の部活の試合を見に行っただのはほぼ初めてでした。「見に来ないで」かって生意気なことありますし、試合会場とか教えてくれないのですよ。でもそこは、男子校のセーフティーネット・保護者のグループラインがありますからね。誰かしらの母が試合の対戦表をあげてくださいます。ありがたい。

反抗期か？いや、次男は夕飯後に一緒にドラマなど見れば必ずといっていいほど、隣に寝転がってスリスリしてきます。もう片方の手で鼻○ソほじってるから「汚い、寄るなー！」とか言ってます。

バレー部は漫画「ハイキュー」の影響で大所帯。同じ学年でもユニフォームをもらえずベンチに入れない子たちもいます。息子には、試合に出られた時の気持ち、控え選手でいる気持ち、ベンチに入れない選手の気持ち、それぞれをよく覚えていてほしいなと思います。

「(自分は)試合には出られないし、出なくていい」と口では言いながら、も部活を絶対に休まず、だからこそ回ってきた代役のチャンス。準備していないところにチャンスは来ないということもまた、覚えていてほしいです。何かしら感じることはあったうえで、今大会のあと、長男の本棚からバレー教本を出してきた模様。机の上に出ていました。

試合に出ていない子の保護者の方々は、いつもの私のように応援には来ていらっしやらないようでした。私も基本は試合に出ない子のお母

も全然めげずにくっついてきます。

試合を見に行つて、他の保護者の方々とちよとお話する機会にもなったのですが、分かったことは、いかに私が子供に何もしてあげないか。

次男は試合の日の弁当は自分で用意します。朝五時台に家を出るので、前日の夜にほぼ仕込みは終わっています。彼の楽しみでもありません。しかも試合にうどんを持って行ったりするのは、麺とつゆ、別にしたりして、その時にあるもので考えてなかなか凝っているのです。

「麺を持ってくる子がいるって聞いた」「あつ、それ、うちですわね」

もちろん、私は忘れものチェックとかしませんし、朝ごはんも自分で用意して食べて出て行きます。

ああ、充分だな、と思いました。あの問題児だった末っ子です。充分ださんですから、レギュラー選手の保護者の方々を、正直うらやましく眺めてきました。だって、久しぶりの試合応援、楽しかった！

彼が小学三年生までは地域のサッカーチームに入っていました。迷惑をかけがちな子だったのもあり、夫がボランティアコーチをしていました。私も応援によく行って、夫婦そろって丸一日グラウンドにいるという週末も珍しくなく。今思えば、それも愛おしい時間。やばい、うかうかしていると子育て終わっちゃいますね。仕事と家庭のペース配分、来年の最大テーマです。



文・写真
小宮華寿子
二男一女の母で
編集者。「ブラジルの
手しごと」著。
ジュエリーの制作販売とブラジル
タペサリア教室「メルカジーニョ」
(<https://mercadinho.net>)代表。



イラスト・
デザイン
寺沼麻美
切り絵作家、時々
デザイナー。「ゆ
らゆらゆるる北欧風手作りモビー
ル」(ネコパブリッシング)を監修。